

令和4年度 富山県地域包括ケアシステム推進会議

日時 令和4年10月4日（火）

13時30分～15時

場所 県民会館 バンケットホール

1 開 会

2 挨拶（富山県地域包括ケアシステム推進会議会長代理 富山県副知事 蔵堀祐一）

3 議 事

(1) 報告事項

① 富山県地域包括ケアシステム推進会議の進め方について

事務局より資料1に基づき説明

② 地域包括ケアシステム構築に向けた県の取り組みについて

事務局より資料2、資料3に基づき説明

③ 地域包括ケアシステムにおける各団体の活動報告について

（魚津市地域包括支援センター：玉水保健師）資料4-1に基づきスライドを使って報告
皆さん、はじめまして。魚津市地域包括支援センターから来ました保健師の玉水と申します。魚津市の移動支援の取組みということで、住民主体の通いの場「通所型サービスB」での活用と展開について、お話しします。

高齢者のあしについて、魚津市に限らずどこでも問題になっているかと思えます。皆さん今は車に乗られている方が多いですが、自分が運転出来なくなった場合、あるいは近くに頼れる人がいなくなった場合、買い物や通院、お出かけが今と同じように好きなようにできると思われる方、どのくらいいますか。また、もし自分の体が少し弱ったときに、介護保険のサービスだけで補うということをイメージできますか。

高齢者の外出の現状と取組みのきっかけですが、移動について考え始めたきっかけは、令和元年度の地域ケア会議です。市の課題やニーズを、住民や専門職、いろいろな人で話し合っただけで気づく、大切な会議です。通いの場をもっと元気にするにはどうしたらいいか、知恵やヒントをいただくために集まっていたいただきましたら、13地区のどのワークショップも、距離や移動の問題が浮き彫りになりました。魚津市では市民バスが走っているのですが、それだけではカバーできない“移動弱者”が存在することに気づいたのがこの元年度です。

令和2年度には75歳以上の方3,200人ほどに、ニーズ調査を行いました。人の送迎に頼っている方が3割、外出を控えている方が3割、その中でも手段がないから移動できないという方が2割いることを把握しました。

こういった移動の現状にあわせて、魚津市では、現在に至るまで通所型サービスBと

いう住民主体の方の通いの場の立ち上げ支援を強化してきました。魚津市の第5次総合計画の成果指標では、令和12年度に通所型サービスBが5か所あることを目標にしていますが、今月で4か所目が開所と、スピーディーに立ち上がっています。

この通所型サービスBは、町内単位であったり、人であったり、人数であったり、その規模や、立ち上げの経過というものがみんな違いますが、それぞれにすごく居心地の良い居場所になっています。

例えば、経田コミュニティカフェ潮風は市の福祉センターが廃止されることに伴い、このままでは通っていた人たちの居場所がなくなるということで、地域の方が全戸に対するニーズ調査を行い、利活用希望する声が多かったということで、2年以上かけて立ち上げられた住民の方の居場所です。週3日間開催されていて100歳の方も利用しています。

また、角川すみれ会は15年以上いきいきサロンという形で続けてこられた町内会の小さな集まりの場ですが、町内が28世帯と非常に小さいので、町外の方でも誰でも、歩いて来られる方は来てほしいということで、町外の方も2人増えた形で通所型サービスBを心地よくしておられます。

サロン上中島「ひだまり」は、地域振興会長が、去年、経田コミュニティカフェ潮風を視察されたときに、地区でワークショップ「みらい会議」をされて、多世代が集まれる交流の場がほしいので、この通所型サービスBを手段として活用したい、と1年足らずで開所しました。いつも25名ほど集まり、大変にぎわっています。

今月、4か所目のコスモスが開所する予定です。あくまでも住民主体の方の通いの場なので、私たちがやрьてくださいとお願いした場所ではなく、こんなのがありますよ、こんなふうにしていますよ、ととにかく行政として周知してきたことで、このようにやりたい方が現れて、その方に全力支援してきたことが4か所の開所に繋がっていると思います。

この通所型サービスBは、非常に聞きなれない言葉ですが、いわゆる通いの場の1つです。いきいきサロンなど、各自治体でも行っている通いの場と一緒に。これから75歳以上の方々がどんどん増えるにつれ、杖で歩く人、つかまって歩く人、いろんな方がでてこられます。地域の方が自分のなじみの場所でいつも会っている人たちと会い続けられる、そういった場所があると良いよねということで、この通所型サービスBは要支援認定の方、あるいはそれに近い状態の事業対象者と認定された方が一定数参加している通いの場です。

魚津市の場合は、週1回以上集まることが介護予防に非常に効果があるというエビデンスから、週1回以上4時間開所しましょう、また、こういった方を5名以上含む通いの場にしてくださいと単純な決まりがあるだけで、あとは住民の方がやりたいように自由にさせていただくものになっています。

大事なのは、ここにみんなが集まって話したり過ごしたりすることが非常に良い効果を生んでいることです。場の立ち上げに関わるときに、皆さんの活動を続けていくときに大事にしてきたのは、住民の声です。この青字のところにあるように住民からはしばしば移動に関する話が出ていました。私も担当者として、何かやりたいという気持ちの人に伝えたい、地域の方が困っていることに何か支援できないか、とずっと思っていました。

介護予防を行うためには、外出がしやすいということは非常に重要で、これは行政がしっかり主導をとって進めていくことだと考えています。住民主体だからといって、じゃ

あ移動に困っているから住民でやって、とまる投げしてもできません。制度を準備する、住民が地域でなにかやらなきゃと思えるような場や、きっかけを作ることは行政が仕掛け人となって行うべきです。このときにちょうど県から研修会の案内があり、国のモデル事業で移動支援のための研修会をするので魚津市さんもどうぞ、とお声がけいただき、参加しました。

研修会では、移動に関する制度や、財政的なこと、ノウハウを持つ先生方や県の職員に後押しいただき、今年度どのように移動支援するか、計画書を作成しました。

魚津市版で移動支援を行うときには、介護保険制度を活用した2つの方法があります。

1つ目は赤枠で囲った「保健福祉事業」で、保険者機能強化交付金を100%、第1号被保険者の保険料に宛がって、そこから出す、それを委託するという方法です。

もう1つは青枠で囲った「地域支援事業」で、総合事業の中の通所Bの皆さんが、自分でやりたいと手を挙げたときに補助するという仕組みです。これは許可・登録を必要としない運送の方法です。

何に補助ができるのか、どんな財源を使えばどんな人に使ってもらえるのかということをお市が主催した研修会で学び、魚津市だったらどうすれば使いやすいかということをお落とし込んで作りました。

1つ目の保健福祉事業は第1号被保険者の保険料でまかなうものなので、65歳以上の方であれば誰でも利用することが可能です。簡単に言えば、市から社会福祉法人等に委託し、デイサービスの空き時間に空き車両を使って、その法人が雇用している運転手に通いの場、通所Bに送迎いただく流れです。委託ですので、市が責任を持って行い、運転手の人件費も含めて全面的に負担する方法です。実現した場合は、利用者から通所Bのボランティア（運営主体）に申し込み、ボランティアが委託先の法人に連絡をする。法人が運転手と調整をして、その結果をまたボランティアにお伝えし、ボランティアから利用者へ、「いつからここで拾いますよ」と伝えて送迎いただきます。市は委託先と委託契約を結びますので、そちらに実績を支払う。あるいは通所Bの運営主体に対して、利用者とな法人を繋いでいただく調整料として補助する流れです。

2つ目の補助は、通所Bの運営ボランティアがマイカー、あるいはデイの空き車両などを使って、住民をご自宅から通いの場へ送迎する方法です。住民がしたいという活動に対して、市が補助する方法です。運送法に抵触するため、運転手の人件費を補助することはできないのですが、それ以外の利用者負担を、必要であればとすることで、まかなっていく仕組みです。この場合は、移動支援のサービス専用の自動車保険というのが保険2社出ていますので、通所Bの運営組織の方にその保険に入ってくださいことで、利用者が自宅から歩いているときの事故又は車に乗っているときの事故に対してしっかり保障できるようにバックアップできます。利用者は通所Bのボランティアに申し込み、そこから通所Bのボランティアの調整を行って、迎えにきていただく流れです。これについては、通所Bの送迎自体にかかる補助の通所Bの調整をしていただく事に対しての補助ということで、2段階運営団体に補助することでしていただくという流れになります。また、安全に運転できるということも非常に重要になりますので、座学や実技などを伴う安全運転講習を市として開催していかなければなりません。これについては生活支援コーディネーターにも協力いただくことになっています。この生活支援コーディネーターは、魚津市では市の社

会福祉協議会に委託しています。地域のニーズをしっかりと拾い上げてくださる方で、人や物、場所等、魚津市の色々な情報を持ち合わせています。困りごとを見つけたら、探したり、見つけたり、繋いだり、マッチングする活動をしてくださっている方です。

今年度、潮風のある経田地区で移動に関する調査のアンケート、集計等を行いました。社会福祉法人にこんなことやりたいけれどもどうですかということでお伺いに行ったり、通所Bをやっているボランティア達にこういったこと考えているけどどうだろうということ意見をいただいたり、あるいは行政なので新規でこんなことがしたいと新規事業の提案書なども作成してまいりました。

今後については地域包括ケアシステム総合的伴走支援事業による支援をあと2回受けることになっています。その他に公共交通関係者の皆さんに周知を行い、安全運転講習をどのように行っていくか等、具体的なことを詰めていきます。

この事業がもたらす効果は、本当に無限大です。移動して集まることにより皆で一緒にご飯を食べることができたり、自分が好きな活動に参加する、あるいは身体が弱くても、皆さん色々な特技をお持ちなので、行くことにより、自分が出来る事で役割を担うこともできます。また子どもや、障害の方が来られる場もあり、世代等を越えた交流も行われています。経田の潮風では漁業組合のわいわい市が来ていたり、移動支援のとくし丸という移動式のスーパーも来たりするので、体操の帰りに買い物もして帰れます。皆さん自分の目で見えて帰るといことで、すごくいきいきと楽しそうです。こういったところで体操に取り組むことで、自発的にフレイル予防、筋力維持に繋がっていると思います。また、毎回毎週顔を合わせているので、来られない方の近況などを皆さんがすごく気にされるようになり、地域の繋がりや、関係性が非常に強まっていると実感しています。移動という1つの手段をとることでその先にあるたくさんの目的を果たすことができるようになってきています。これがまさに馴染みの地域でいつまでも安心して住むということに非常に大事ではないかと思えます。私も個人でこの移動の取り組みというのは非常に不安だったので、県の方に研修で支えていただき、講師の先生、包括のメンバーに大変気にかけていただき、本当に助けられてやってきたと思えます。担い手の問題などありますが、住民の方もやる気があるとか少しなら手伝ってあげたいという方が必ずいます。そういった方が自分たちの地域をどうしていきたいか、どうあればいいのかということに気づいていただくために、行政が場をしっかりと設けていく、あるいは制度をしっかりと整えて住民の方がやりたいと思ったときに助けになれることを、行政としてこれからも行いたいと思えます。介護予防と生活支援という2つ柱をしっかりと見据えてこれからも地域の方の役に立てるように尽力していきたいです。本日はありがとうございました。

(カフェおがみ：齊藤氏) 資料4-2に基づきスライドを使って報告

皆さん、こんにちは。雄神楽天塾の事務局 齊藤と申します。あうんの呼吸で連携雄神楽天塾と地域コミュニティの核カフェおがみの活動と運営について、発表いたします。

最初に雄神地区について説明します。砺波市庄川地域の東部に位置し、庄川沿いの幅約2キロ、長さ約5キロと細長い集落で3つの自治会があります。人口は252世帯、742人と砺波市では3番目に少なく、高齢化率は43%と高く、少子高齢化と過疎化が進んでいます。現在、地域住民には結束力があり、地域活動は活発ですが、将来に向けての活

性化策が必要であると思われます。また、雄神地区は古来より庄川の河岸段丘にあり、古くから人々が住み着き、長い歴史と多くの文化財を持つ地区でもあります。

次に私たち雄神楽天塾グループの特色、持ち味を紹介します。メンバーは現在 17 名、平均年齢は 71 歳、活動への参加は自主的な無償ボランティア、全員が自発的に活動し、多方面に能力を発揮し、お互いを認め合いながら協調できる仲間です。活動は束縛ではなく、ゆるやかに繋がり、支え合って目標に向け進めています。

雄神楽天塾の誕生経緯と活動について説明します。2010 年当地区の市議会議員の後援会に女性部が結成され、熱血女性グループが誕生しました。2013 年熱血女性グループが「雄神楽天塾」を結成、モットーは「地域を元気に！自らも楽しもう！」です。2015 年雄神地区自治振興会が地方創生事業の助成を契機に「モアハピネスおがみプラン」を策定、このプランの 2 つのプロジェクトの企画、運営を担うことになりました。

振興会が策定した「モアハピネスおがみプラン」について説明します。地域力を活かし、さらなる地域コミュニティの充実と地域の活性化を図るのが狙いです。モアハピネス、より幸せになることです。おがみを頭文字にした 3 つのプランが作成されました。おがみの【お】は「おらっちゃ元気で安心やちゃ」プラン、講座や教室、レクリエーション等を通じ、人を元気にするプランです。認知症予防のために「健康マージャン教室」「臨床美術教室」の開講、歌って元気「健康カラオケ教室」の開講です。おがみの【が】は、がってん！“おらがふるさと”プランです。内容はふるさとの魅力を再発見し、発信するものです。そしておがみの【み】はみんなの幸せ仕掛人プランです。多世代の交流の場（たまり場、少人数のグループ活動の場、子守り、くつろぎの場、暇つぶしの場等）にぎわいの場を提供するプランです。まずは集会センターの会議室を改装し、カフェを運営すること、また、地域の特産品を商品化し、生産者を応援しようというプランです。

雄神楽天塾は「おらっちゃ元気で安心やちゃ」プランとみんなの幸せ仕掛人プランの企画・運営について協力することになりました。2017 年 7 月活動を開始してから 1 年半、待望のコミュニティカフェ「カフェおがみ」を開店しました。同時期に「健康マージャン教室」、「臨床美術教室」、「歌声喫茶」も開講しました。健康マージャン教室は人気があり、スタッフも時々入り毎日やっています。臨床美術教室は毎月第 4 火曜日、自主グループの活動として継続しています。臨床美術教室の受講者は 8 名から 10 名、70 代から 90 代の方です。

ここで「カフェおがみ」の運営について説明します。管理者は雄神地区自治振興会「カフェおがみ」のある雄神集会センターの運営管理者です。運営は雄神楽天塾、無償ボランティアで、当番制ではなく都合の良いメンバーが出てくる体制です。営業時間は平日 10 時から 15 時、現在は午前中のみです。時間外利用の場合は事前予約で利用できます。サービスの内容ですが、飲み物はコーヒー、抹茶、おがみりんごジュースの提供です。1 杯 100 円から 150 円です。スタッフ手作りスイーツも提供しています。健康マージャンの方は 1 回 100 円です。ほかトランプゲームも盛んに行っております、無料です。

おかげさまでカフェは大変繁盛しており、利用者数については、年間 5,600 人、1 日平均 25 人、コロナの影響で今年度は平均 18 人です。利用の年齢層は 60 代から 80 代、男女半々の利用です。年間行事として麻雀大会 2 回、ランチ会 3 回このランチ会の対象は各地区の高齢者サロンの参加者の方々を招待しております。その他スタッフが思いついた事業

を随時開催しています。地元の各種団体の利用も多く、地区外からの来訪者も多数いらっしゃいます。令和3年度、カフェおがみは富山県地域包括ケア実践顕彰を受賞しました。私たちの活動が認められ、これからの活動の励みとなっています。

カフェの様子です。右下は臨床美術教室の様子です。こちらの2人は90歳の同級生です。みんなの幸せ仕掛人プランの、もう1つの活動になります。地域の特産品の商品化と生産者の生きがいをづくりのために、2018年富山県の中山間地域チャレンジ支援事業に応募したところ採択され、2つの事業に取り組むことになりました。雄神の里農産物直売所の開設と特産品の商品開発・加工です。新聞で報道された直売所の様子です。右の下の写真は夏野菜カレー交流会の様子です。特産品の加工品をPR・販売しました。有楽町のアンテナショップ、となみ食彩市場での様子です。試食で提供したゆず味噌たっぷりのおでんです。生ゆずの加工、酒漬け用の塩漬けきゅうりの下処理の様子です。庄川ゆずまつりではゆずパイづくり教室を開催しました。

今年度はさらなる地域コミュニティの活性化に向けて、再度中山間地域チャレンジ事業に取り組むことにいたしました。おかげさまで採択され、今年度は「ふれあい広場」を整備し、「多世代交流と地域の輪・和・話づくり」の活動に取り組んでいます。以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

(2)意見交換

(会長代理・蔵堀副知事)

どうもありがとうございました。

意見交換に移ります。県からの報告、2つの団体からの活動報告、また地域包括ケアシステムの効果的な普及啓発や、担い手のすそ野をさらに広げていくための取組み等について、ご意見をいただきたいと思っております。

地域での医療・介護を支えるお立場から県医師会の馬瀬委員、よろしくお願ひいたします。

(馬瀬委員)

ありがとうございます。地域の活動は意外と中山間地、過疎地域でしっかり取り組まれており、富山市の市街地では逆の現象が起きています。昔は各町内会で色々な活動、取組みが季節ごとにありましたが、いまはめったに顔を合わすこともなく、こういう活動が中心部でも活発に行われるようになったらいいと思います。都会では誰とも繋がりがなく、親子で餓死した事例もあります。悲惨な状況になる前に、地域包括ケアシステムの推進といますか、昔の町内会、地域との色々な繋がりのある集まりが活発であることが大事だと思いました。

今報告いただいた2つの地域の活動は本当に楽しそうで、近くに住んでいたら参加したいと思いました。活動することで、高齢者が増えても孤独死を避けることができると思っています。医師会としては、何かあれば参加したいと思っております。

(会長代理)

ありがとうございました。次に介護支援専門員のお立場から高原委員、よろしくお願いいたします。

(高原委員)

よろしくお願いいたします。私たちケアマネージャーは地域包括支援センターといった居宅介護支援事業所、あるいは介護事業所と、地域の方々と一緒に活動を行う機会が多いです。県の調査で70%以上の方が住み慣れた地域で、と話がありましたけれど、市町村で調査をしても、やはり住み慣れたところで暮らし続けたいと。そういったなかで、介護保険だけではなく、それ以外の地域の皆さんで支え合う活動が、徐々に徐々に進んでいると思います。私たちは介護が必要な方々の見守りだったり、ちょっとした買い物の支援だったり、ゴミ出しなどを地域の方々と協力しながら、支え合うネットワークをずっと作っていましたし、介護予防ではないですけど、サロンなども一緒に作ったりしてきました。

今ほど2つの活動報告は、すごいと思いました。もっと県内で周知して、それぞれ地域の実情はあると思いますが、私たち地域でもこういうことできるじゃないだろうか、みたいなことを考えていただく機会を作っていただければと思います。

県からの報告で、ワーキンググループを作られるというお話がありました。

各市町村が一生懸命やっていると、それぞれの実情でうまくできるところと、ご苦労されるところがあると思います。先ほど馬瀬委員もおっしゃられたように、富山市も広いので、中心部や郊外で実情が違ったり、担う人の確保も大変という話もあります。なんでもかんでも私たち、という負担感があるところもあるので、ご苦労をうまく和らげて、うまく取り組みができるようなものになっていけばいいと思います。介護予防の取組みにしても、富山市は介護保険の事業所が多いこともあるのか、既存のサービスが多いです。そこでまかなえる部分もあり、魚津市さんからお話があった、みんなで作っていこうというところが伸び悩んでいるとか、いろんな問題があるので、具体的なところをワーキンググループで検討して、いろんなことを教えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

(会長代理)

ありがとうございました。次に高齢者の友愛訪問などを行われている県の老人クラブ連合会の麻島委員、よろしくお願いいたします。

(麻島委員)

富山県老人クラブ連合会では、「のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」をメインテーマとしまして、健康づくり介護予防活動の推進、地域支えあい事業の推進、会員の増強と組織活動の強化、各種研修会等による会員の質の向上、そして、高齢者の安心安全な暮らしの実現、の5つの重点目標として取り組んでいるところです。地域包括ケアシステムの関係では、老人クラブも自治会、ボランティア、NPOなどと共に生活支援や介護予防の観点からシステムの一員として位置づけられているところです。

近年は新型コロナ禍もありまして、高齢者の外出する機会が減ったり、人との会話が

減ったりして、フレイルになりやすいので、これを少しでも解消できるように、次のような事業を重点的に取り組んでおります。

まず、健康づくり、いわゆる介護予防活動では健康づくりセミナーの開催、それから今年からですが、県の支援をいただきながらeスポーツなどのシニアスポーツの振興、女性委員会では地域医療費減少教室などを開催しております。地域支えあい事業では市町村老連が、高齢者単身世帯や高齢者世帯を訪問しまして、家事労働、見守り、会話などを行う事業を行っております。また、高齢者訪問支援活動推進リーダー養成研修なども開催などにも取り組んでいるところでありますが、これを広めるときのリーダーの育成がなかなか大変です。老人クラブも参加者が増えてきておりません。いま、高齢者は仕事を持っている人が増えておりますし、先ほどの雄神楽天塾の中心メンバーの17名の平均年齢が71歳で、カフェおがみを運営しているということですから、高齢者が色々な取り組みで元気になってきていると思っております。

魚津市さんの取組みも素晴らしいと思いますが、あしがなくて困っている人もいますが、50%はまだ運転しています。富山県では車が無いと非常に生活が不便になるところも多いので、運転免許証を返納した人の移動を助けることも1つの方法ですが、運転免許証を持っている人に対しても何かできないか、国土交通省のビジョンを見ますと2040年の交通の状況というのは、驚くべき状況になっています。そこも視野に入れますと、運転免許証を持っている人に対する話も考えていかないと、とも思いました。以上でございます。

(会長代理)

ありがとうございます。それでは、高齢者、地域を支える立場からご意見をいただきたいと思っております。最初に自治会連合会の北岡委員、よろしくお願いいたします。

(北岡委員)

自治会連合会です。先ほどの魚津市の例、雄神地区の例を聞きまして、大変頼もしく素晴らしいと思えました。これからの私たちの活動で、参考にできるものはどんどん取り入れていきたいと思っておりますが、支え合うとか、支え合いという言葉が出てきましたが、私どもの周りを見ますと、人材の確保に大変苦労しています。お互いに助け合っているという気持ちは分かりますが、60、65、70歳はまだまだ仕事を持っておられたり、なかなか地域のボランティアとして参加する数にカウントできない悩みがあります。そこで、私どもは基礎団体としての町内会活動をもっと活発にしていき、そのなかで、例えば富山市並びに富山県から派遣いただく出前講座を活用する。そして行政の支援を受けながら、お互いに自分ごととして励まし合い、助け合う、そういうシステムを作っていくと、先ほど申しあげた人材の確保、支え合うボランティアを増やしていく、1つのお手伝いになる、同時に私たち自身のパワーの発揮といいますか、そのあたりが助けられていくと思っております。

まとめになります。皆で支え合う、私たちは地域住民のいろんな組織、例えばふるさとづくり、民生委員、食改、婦人クラブ、長寿会、代表等々で、力を合わせて、地域の住民の皆さんを支えていく活動をしていきたいと思っております。しかし、コロナ禍で振興会としてなかなか住民の皆さんに活動の場が提供できないという悩みを持っています。だいたい

落ち着いてきておりますので、この後、住民の力が結集できるようなコミュニティ活動の提供ができるようになればよいと思っています。以上でございます。

(会長代理)

ありがとうございました。次に民生委員・児童委員のお立場から得能委員、お願いいたします。

(得能委員)

県民生委員児童委員協議会としましては、年度ごとの事業計画に地域包括ケアや包括支援、重層的支援体制構築の推進に協力、参加することを期待しています。各地域においても、住民の困りごとをしっかりと受け止める身近な隣人としての役割を担い、高齢者、障害者、子どもたち、様々な相談や案件、団体と連携して審議を行っていくことで包括ケアシステムの一端を担っていると考えています。

地域では社会福祉協議会や自治会、地域団体と連携しながら高齢者とのふれあい、いきいきサロン活動や配送、こども食堂等の開催の協力を行っています。

地区社協、福祉協議会が行っているケアネット活動、ふれあいコミュニティ・ケアネット 21 にも協力し、見守り活動や必要な支援が必要な方へのケアネット活動などとともに取り組んでいます。

そのような状況のなか、魚津市の方が発表された、交通手段を、逆にそれをツールとして地域のコミュニティをもう 1 度再構築しようという考え方は、素晴らしいです。麻島委員も言われましたが、問題はそのときだけ集めてという話ではなく、生きがいを作るといことで、その人たちが個々に運転できる、2025 年、2030 年ぐらいまでに、自動化運転の話も出ております。もう空を飛ぶ時代となりますので、そういうことも全く高齢者に対して苦にならないような確固とした手段というものを、これという交通手段を地域の中で進むよう国も考えるということが今うたわれております。期待したいと思います。魚津市の交通手段のツールとしての考え方のなかで、そういうことが少し頭の中に湧き上がりました。

雄神楽天塾さんは本当に頑張っておられます。我々が小さい頃は、地域社会が、家族の中のお爺ちゃん、お婆ちゃんがこのようなことを行っていました。やはりあの時は非常に地域の人間的な繋がりも強かったんだろうと懐かしく考えています。高度経済成長、バブルの崩壊で日本が変わろうとも、やはりそこに戻っていく、原点ではないかと、雄神楽天塾さんの活動から考えさせられます。我々もこれを参考に、地区に戻り、しっかり考えながら活動していきたいと改めて思いました。どうもありがとうございました。

(会長代理)

ありがとうございました。次に婦人会のお立場から岩田委員、よろしくお願いいたします。

(岩田委員)

魚津さんと雄神楽天塾さんの活動は本当に素晴らしく頭の下がる思いです。私は福祉

人材の育成を常に心配しておりますが、雄神楽天塾さんの地元で婦人会がなくなりましたが、今このような活動をしていらっしゃるの聞き、とても嬉しく思いました。特産品をちゃんと利用して活動されていると、本当に嬉しく思っております。

また、女性の活躍と感心しております。高齢になるとますます地域で住みたいと思う人が多い中で、やはり地域の人じゃないと分からない介護とか関わりがあると思うので、本当にこれからも頑張っていたきたいです。

地域にこのようなグループがたくさんできればいいと思いますが、ボランティアだけでは難しいので、やはり行政と手を繋いで、頑張っていたきたいです。若い人の参加が難しい時代になりましたけれど、健康である限り年齢に関係ないので、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。ありがとうございました。

(会長代理)

どうもありがとうございました。次に食生活改善推進のお立場から勝田委員、お願いいたします。

(勝田委員)

勝田です。よろしくお願いたします。魚津市さん、雄神楽天塾さんの活動発表をお聞きして本当に感心、感動いたしました。素晴らしいという言葉に尽きます。雄神楽天塾さんの、全員が自発的に行動し、多方面に能力を発揮し、お互いを認め合いながら協調できるということが、高齢者の方それぞれ今までされてきた色々な能力をしっかりと伸ばしていらっしゃるということが、本当に素晴らしいと思います。また、マージャン塾等も積極的になさっていらっしゃる。マージャンが今小学生の中では大変人気だそうです。頭の活性化ということですごく人気あるそうなので、生涯を通じてやってらっしゃるのは、とても素晴らしいと思いました。

県食生活改善推進連絡協議会は、県下 15 市町村で活動しています。現在、全世代に広げよう健康寿命延伸プロジェクトということで、若者世代、働き世代、高齢世代といった各世代に分けて事業を行っています。特に高齢世代には、シニアカフェを各地区で、そして公民館単位で開催しております。公民館単位で開催していますが、参加される方が 10 数年前は 30 人程だったのが、今は 10 何人ぐらい、時々少なくなったり多くなったりしますが、それこそ興味のあるものに参加いただけることが素晴らしいと思っています。

また、健康寿命延伸ということで、低栄養の予防、ロコモティブシンドロームの予防、認知症の予防等のお話をして、その後会食という流れで活動しております。コロナで 2 年ほどは活動できなかった部分もありますが、最近は少しずつ会食も再開でき、皆で一緒に召し上がるという喜びを味わっていただくこと、また閉じこもりにならないようにと考えています。ただ活動においでにならない方をいかにして呼び出すかということが、これからの課題になってくるのと考えています。

先ほどの報告があった行政の色々な施策と、ボランティアの活動それから地域住民の活動とが連携しながら、県の高齢者事業を推進いただければありがたいと思います。ありがとうございました。

(会長代理)

ありがとうございました。次に社会福祉協議会のお立場から柴委員、お願いいたします。

(柴委員)

事例発表につきまして、他の委員と同感です。特に交通の関係、例えば事故が発生したら、とどうしてもマイナス面のことを考えて消極的になることもあると思いますが、積極的にニーズに応じていらっしゃる、大変素晴らしいと思います。市町村社協もそういった活動にポテンシャルを持っていますので大変心強く思いました。

県や、市町村の社会福祉協議会は、福祉関係者、自治会、ボランティア等が集まり、課題を共有して解決する包括的支援の考え方に基づき、高齢者の問題や、生活困窮、障害等、色々な生活課題に対応するために色々な活動を行っております。地域包括ケアシステムと、対象等若干違いはありますが、方向性は共通すると思っております。

もう1点、ふれあいコミュニティ・ケアネット 21 について、地域で地域住民が主体となって、ご近所に生活課題が発生した場合、気づきであるとか、見守りであるとか、簡単なお手伝いをするなど、ケアネットの活動が根付いておりますが、やはり地域の繋がりが希薄化する傾向もありますので、引き続きこの制度の充実・強化についてお願いしたいと思います。以上であります。

(会長代理)

ありがとうございました。

本日、皆様からいただいたご意見はしっかり、県の施策に反映させていきたいと思っておりますので、今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

予定の時間がまいりましたので本日はこのあたりで会を閉じさせていただきたいと存じます。誠にありがとうございました